

開催報告 第10回 日本医療マネジメント学会学術総会

第10回日本医療マネジメント学会学術総会

会長 稲垣春夫

(トヨタ記念病院 病院長)

平成20年6月20日(金)、21日(土)の両日、名古屋国際会議場において第10回日本医療マネジメント学会学術総会を開催させていただきました。お陰を持ちまして、参加総数は3,950名(事前登録者:2,491名、当日登録者:1,459名)と盛会裡に無事終了することができました。これもひとえに皆様方の格別なご指導とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

今回、テーマを「安全・安心・信頼の医療～未来につづく地域医療連携～」とし、本来であれば、「安全・安心・信頼」という医療が必ず備えていなければならない要素をあえてメインテーマに取り上げることで、本質を見失わず、それぞれの立場で質の向上を目指していくとともに、昨今指摘されている「医療崩壊」にも深く切り込んだ内容を取り揃えました。また、締め切り期限を延長して募集して参りました。皆さまのご協力により、一般演題625(口演:506題、ポスター:119題)、クリティカルパス展示77題の計702題の応募をいただくことができました。特に口演希望の方については、全員に発表する機会を与えるためポスター発表への振り替えは行わず、会場を増やすなどして全て対応させていただきました。どの会場も満員のなか活発な討論が繰り広げられ、かつ予定通り終了出来ましたことを座長の先生方はじめ会員の皆様に感謝申し上げます。



稲垣春夫会長挨拶



会場風景



特別講演の中村博治企画官

特別講演として厚生労働省医政局の中村博治企画官をお呼びして、「これからの医療制度のあり方」をテーマに①医療従事者の数と役割、②地域で支える医療の推進、③医療従事者と患者・家族の協働の推進の3本柱について詳説いただき、今後の医療制度の方向性を再認識することが出来ました。

また、招待講演では、3人の演者をお招きしました。1日目は金城学院大学学長の柏木哲夫先生に「ホスピスケアとユーモア」というテーマでご講演いただきました。柏木先生は淀川キリスト教病院にホスピスを設立された日本のホスピスの草分け的存在であり、その経験を踏まえて終末期における笑いの効用を分かりやすくお話しいただきました。また、医療にちなんだ斬新かつ的を得た川柳をご披露いただくなどユーモラスな講演で満員の会場も笑いに包まれていました。

2日目は、㈱トヨタ自動車の林南八技監による「業種を問わず展開できる“TOYOTA WAY”『トヨタ生産方式の本質と進化(深化)』～今、何が求められているか～」と題し、効率を重視しながらも質を高めるというトヨタ自動車独自の生産方式の歩みから、ものづくり・人づくりに至るまで幅広くお話しいただきました。それぞれの医療現場で今後、取り組むべき改善の良いヒントになったと思います。もうひとつは、市民公開を兼ねた㈱トヨタ自動車パートナーロボット部の高木宗谷理事による「将来の介護・医療を考えたパートナーロボットの開発」と題した講演で、介護・医療支援などロボットが関わる医療の未来をイメージしていただけたと思います。今や家庭に1台以上の乗用車が当たり前ですが、これからは家庭にロボットが当たり前の時代もそう遠くないかもしれません。また、講演に合わせて会期中、2輪倒立型の「モビロ」とトランペット演奏ロボットのデモンストレーションを行いました。この「モビロ」は左右独立に車輪が上下し、凸凹路面や斜面でもシートを水平に保ったまま安定走行が可能で、病室の狭い場所でも人の呼び出しに応じたり、人に追従できる機能などを備えており、少しでも身近に感じてもらえるよう急速、パートナーロボット部の協力で実演が可能となりました。実演会場が狭く、立ち見やご覧いただけなかった方も多くご迷惑をおかけすることになり大変申し訳ありませんでした。